

大分大学 経済学部 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー：DP）及び教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー：CP）

経済学部 【学士（経済学）】

		専門的知識・技能の活用	コミュニケーション能力	創造的問題解決力	社会的責務と倫理	地域発展・人類福祉への貢献	生涯学習力	
ディプロマ・ポリシー	大分大学経済学部では、学生が学士課程の修了時に、以下の資質や能力を備えるべきものとします。	経済学・経営学を中心とした社会科学の専門分野における基礎知識や方法論を身につけているとともに、主体的に学ぶ姿勢を生涯にわたり継続しつつ、それらを自らのキャリアデザインに活かすことができる。	人類の幅広い知を学ぶことによって、多様な文化や価値観を理解し、尊重するとともに、社会生活の多様な場面で、自己を表現し、他者との相互理解を図るためのコミュニケーション能力や、国際化・情報化に対応できる能力を有している。	修得した知識と能力を活用して、地域および国際経済社会の諸課題を社会との繋がりの中で自ら発見し、的確に分析できるとともに、その解決策を所属する組織や社会に対して説得的に提示できる。	人類の幅広い知を学ぶことによって、多様な文化や価値観を理解し、尊重するとともに、社会生活の多様な場面で、自己を表現し、他者との相互理解を図るためのコミュニケーション能力や、国際化・情報化に対応できる能力を有している。	修得した知識と能力を活用して、地域および国際経済社会の諸課題を社会との繋がりの中で自ら発見し、的確に分析できるとともに、その解決策を所属する組織や社会に対して説得的に提示できる。	経済学・経営学を中心とした社会科学の専門分野における基礎知識や方法論を身につけているとともに、主体的に学ぶ姿勢を生涯にわたり継続しつつ、それらを自らのキャリアデザインに活かすことができる。	
カリキュラム・ポリシー	大分大学経済学部では、ディプロマ・ポリシーの各項目を達成するために、以下のように、基礎から応用に至る体系的な教育を行います。	教育課程の編成と教育内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学科配属は2年次とし、初年次向けの専門基礎科目や、学科の専門学習の土台となる学科基盤科目を含む主専門科目、および他学科の開講科目のうち所属学科での学習に関連性が強い科目を副専門科目として置く。 ・ 専門基礎科目と専門教育科目の橋渡しを行う専門教育セミナー科目、および分析力・思考力・表現力を高める少人数の演習・卒業論文科目を必修とする。 	専門性を発揮する基盤となる幅広い教養力を身につけるための科目や、国際化・情報化に対応した能力育成のための科目を置く。	専門基礎科目と専門教育科目の橋渡しを行う専門教育セミナー科目、および分析力・思考力・表現力を高める少人数の演習・卒業論文科目を必修とする。	実社会での経験豊かな社会人による講義科目や、国際通用性・地域課題探究能力等を高める科目など、学科を超えた幅広い学習を行う学部共通科目を置く。	専門性を発揮する基盤となる幅広い教養力を身につけるための科目や、国際化・情報化に対応した能力育成のための科目を置く。	
		教育方法	能動的・主体的に学修し、深い専門性を身につけるために、必修科目の少人数によるセミナー科目・演習科目を4年間のすべての学期で開講し、講義形式による学びとそれらを連動させる。	幅広い教養を身につけ、国際化や情報化に対応した能力を育むため、4年間にわたって教養科目を履修できるよう配置し、特にリテラシーを高める科目においては双方向性を確保した手法を取り入れて実施する。	課題の発見や解決力の育成を目指して全学科に課題解決型の科目を配置し、外部の組織や機関と協働してアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を実施する。	幅広い教養を身につけ、国際化や情報化に対応した能力を育むため、4年間にわたって教養科目を履修できるよう配置し、特にリテラシーを高める科目においては双方向性を確保した手法を取り入れて実施する。	課題の発見や解決力の育成を目指して全学科に課題解決型の科目を配置し、外部の組織や機関と協働してアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を実施する。	幅広い教養を身につけ、国際化や情報化に対応した能力を育むため、4年間にわたって教養科目を履修できるよう配置し、特にリテラシーを高める科目においては双方向性を確保した手法を取り入れて実施する。
		学修成果の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義中の質疑応答、課題レポートの執筆内容および期末試験により、学修の到達度を客観的に評価する。 ・ 教養科目も含め経済学部が担当する科目について受講者の成績評価を教授会で確認する。なお、成績評価に対して学生は異議申し立てすることができる。 ・ 全学期開始時に全学生に学修ポートフォリオを作成・提出させ指導に活用する。 ・ 演習については、専門的知識修得のための課題への取り組み及び成果発表等により、客観的に評価する。 ・ 卒業論文は、審査によって評価する。 ・ 学部共通科目、課題解決型の科目の単位取得をもって目標に到達したと評価する。 					

学部	経済学部
----	------

最終更新日	令和3年(2021年)12月17日
-------	-------------------

ディプロマ・ポリシー	
1 専門的知識・技能の活用	経済学・経営学を中心とした社会科学の専門分野における基礎知識や方法論を身につけているとともに、主体的に学ぶ姿勢を生涯にわたり継続しつつ、それらを自らのキャリアデザインに活かすことができる。
2 コミュニケーション能力	人類の幅広い知を学ぶことによって、多様な文化や価値観を理解し、尊重するとともに、社会生活の多様な場面で、自己を表現し、他者との相互理解を図るためのコミュニケーション能力や、国際化・情報化に対応できる能力を有している。
3 創造的問題解決力	修得した知識と能力を活用して、地域および国際経済社会の諸課題を社会との繋がりの中で自ら発見し、的確に分析できるとともに、その解決策を所属する組織や社会に対して説得的に提示できる。
4 社会的責務と倫理	人類の幅広い知を学ぶことによって、多様な文化や価値観を理解し、尊重するとともに、社会生活の多様な場面で、自己を表現し、他者との相互理解を図るためのコミュニケーション能力や、国際化・情報化に対応できる能力を有している。
5 地域発展・人類福祉への貢献	修得した知識と能力を活用して、地域および国際経済社会の諸課題を社会との繋がりの中で自ら発見し、的確に分析できるとともに、その解決策を所属する組織や社会に対して説得的に提示できる。
6 生涯学習力	経済学・経営学を中心とした社会科学の専門分野における基礎知識や方法論を身につけているとともに、主体的に学ぶ姿勢を生涯にわたり継続しつつ、それらを自らのキャリアデザインに活かすことができる。

教育課程と学習成果に関する基準	
1	学位授与方針が具体的かつ明確であること
2	教育課程方針が、学位授与方針と整合的であること
3	教育課程の編成及び授業科目の内容が、学位授与方針及び教育課程方針に則して、体系的であり相応しい水準であること
4	学位授与方針及び教育課程方針に則して、適切な授業形態、学習指導法が採用されていること
5	学位授与方針に則して、適切な履修指導、支援が行われていること
6	教育課程方針に則して、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されていること
7	大学等の目的及び学位授与方針に則して、公正な卒業(修了)判定が実施されていること
8	大学等の目的及び学位授与方針に則して、適切な学習成果が得られていること

番号	実施状況	手法	名称	実施時期	実施頻度	対象	チェック内容・項目	対応 DP						評価者	実施責任者	結果の活用方法	教育課程と学習成果に関する基準									
								1	2	3	4	5	6				1	2	3	4	5	6	7	8		
1	実施中	成績分布表	成績評価分布の確認	秋冬	毎年	全学年	全科目の成績評価分布を教授会構成員が相互に確認する	●	●	●	●	●	●	教授会構成員	教務委員会	全科目の成績分布,受講者数,平均 GPA(クラス毎のGPA)を確認し,教員間の相互チェックにより検証を行なうとともに,個々の教員が自己点検を行ない教育技法の改善に取り組む意識を持つ。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
2	実施中	民間試験	TOEIC	7月,2月	毎年	7月(2年生) 2月(1年生)	英語レベル	●	●					英語担当教員	国際ビジネスコミュニケーション協会	英語科目の成績評価や英語科目のクラス編成の資料として活用する。また,英語教育改善のための検討資料として活用する。					●	●	●	●	●	●
3	実施中	質問紙	卒業時調査「教育・学修成果の検証に関するアンケート」	12月	毎年	卒業予定者	カリキュラム満足度,学生支援満足度,施設・設備の満足度など	●	●	●	●	●	●	学生	内部質保証委員会	全学の教務委員会から報告されるアンケート結果に基づき,学部で学生の自己評価や反省内容を次年度以降のカリキュラム内容の検討に資する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
4	実施中	成績判定資料	留年学生数の分析	3月	毎年	2年生,4年生	留年学生数,留年比率	●	●	●	●	●	●	教務委員会	教務委員会	留年生について今後の学修方針を確認・指導する。単位取得数が少ない学生についての指導方針の資料とする。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
5	実施中	論文	卒業論文	12月	毎年	4年生	学修成果	●	●	●	●	●	●	卒業論文指導担当教員	卒業論文指導担当教員	評価結果を次年度の講義内容の検討資料として活用する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
6	実施中	質問紙	学生による授業評価「授業改善のためのアンケート調査」	各学期末	毎年	全学年	講義内容の満足度,学生の取組状況など	●	●	●	●	●	●	学生	内部質保証委員会	教育マネジメント機構から報告されるアンケート結果に基づき,担当教員が学生の自己評価などの回答内容を次年度以降の講義内容の検討資料として活用する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
7	実施中	学修ポートフォリオ	学修eポートフォリオ (All About Me)	7月,2月	毎年	全学年 (平成29年度以降入学生)	当該学期に頑張った内容,次学期に頑張りたい内容など	●	●	●	●	●	●	学生	教務委員会	セミナー科目担当教員が,学生の記載内容を確認し,学生が次の目標に向けて取り組めるようコメントを学生にフィードバックする。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
8	実施中	異議申し立て	成績評価の異議申し立て制度	3~4月,9~10月		全学年	成績評価判定	●	●	●	●	●	●	学生	教務委員会	成績評価判定について,学生が異議を申し立てることができる。評価について,担当教員より書面で学生に回答する。	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●